

衣笠

第495号
March.2025
2025年3月1日発行



わたしの兄弟である
この最も小さい者の一人にしたのは
わたしにしてくれたことなのである

マタイによる福音書 25章40節



社会福祉法人
日本医療伝道会
衣笠病院グループ
Japan Medical Mission
<https://www.kinugasa.or.jp>



評議員就任のご挨拶 「神様に愛され、 生かされている」

学校法人横須賀学院 学院長 川名 稔

この度、社会福祉法人日本伝道会衣笠病院グループの評議員を仰せつかりました。精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第二次世界大戦終結後、江戸時代末期より軍港都市として栄えてきた横須賀は大きな混乱へと陥りました。日本にとっても米軍にとっても「経済の再建と民主主義化」が重要な課題となりました。当時、米海軍の司令官であったベントン・W・デッカー大佐はキリスト教に基づく復興を提唱し、キリスト教関連の教育機関、教会、福祉施設、医療機関などが相次いで設立しました。その中で衣笠病院は1947年に、学校法人横須賀学院小学校・中学校・高等学校は1950年に時をほぼ同じくして創設されました。共に情熱を傾け続けた先人たちの平和を願う素朴な思いと、神様への深い信仰のもとに誕生したのです。その後も多くの困難や課題を抱えながらも、お互いの関係をより深めつつ今日に至っています。日頃より、衣笠病院グループの皆様には学校の運営に多大なご協力をいただいているほか、近年は高校3年生対象の「教養講座」をお引き受けいただいたり、クリスマスに本校から「ハンドベル・クワイア」によるビデオレターをお送りして喜んでいただいているなど、交流を深めています。

これからも共に、“神様に愛され、この世に生かされている”ということを中心に喜び、祈り、感謝しつつ、日々前のものに向かって歩んでいきたいと願っています。

プロフィール

1958年 東京都新宿区生まれ
1960年 神奈川県藤沢市に転居 幼少期から日本基督教団辻堂教会に通う
1970年 東京新宿に転居 日本基督教団新宿西教会に通い、1981年受洗
1981年 学校法人横須賀学院中学校・高等学校社会科教諭として着任
2009年 同校主事、2010年 同校教頭、2019年 同校校長
2024年 学校法人横須賀学院 第8代院長に就任し、現在に至る
現在、一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会理事
公益財団法人神奈川県私立学退職基金財団評議員
日本私立中学高等学校連合会評議員
一般財団法人神奈川県高等学校野球連盟参与
昨年11月に神奈川県私学教育功労賞を受賞

2 事業方針と2025年度の取り組み
グループ本部長 都甲 真二

3 栄養サポートチームの活動
～“食べる”を支える～
NST 専門療法士・管理栄養士 高田 千春

4 災害と防災について
衣笠病院 事務部長 行谷 俊明
施設用度課 主任 渡辺 良輔

5 衣笠病院グループ歴史館 第4回
衣笠病院の源流（その4）
法人監事 阿部 誠

今月の聖句
チャプレン室 チャプレン 赤松 真希

6 失われた命の重みを忘れずに
～衣笠病院火災から65年を迎えて～
チャプレン室長 大野 高志

さくらネットについて
～地域で支える新たな取り組み～
衣笠病院 事務部長 行谷 俊明

7 元気に長生き！
～基本チェックリスト⑦ まとめ編～
衣笠病院 リハビリテーション技術科 石射 大路

新チャプレン就任について
チャプレン室長 大野 高志

8 ケアマネジャーのケアマネ子さん
聞いてもいいですか？ ⑧最終回
クリスマス報告
編集後記



【白寿御祝】当法人第3代理事長 阿部志郎先生が今年2月に満99歳を迎えられ、南理事より花束



事業方針と2025年度の取り組み

グループ本部長 都甲 真二

衣笠病院グループは1947(昭和22)年に創立されたときの精神を受け継ぎ、77年にわたって非営利・公益の法人として地域密着の全人医療・全人介護を提供してきました。近年、人口構造や社会保障政策が加速度的に変化することに伴い、職員の中でも「今後の衣笠病院グループの役割は何か」「どの分野に力を

入れ、どんな対策に取り組むのか」というような視点からの議論が活発になってきています。そこで、創立の精神と運営理念に基づきつつ、これからの地域のニーズと社会環境の変化を踏まえた「事業方針」を作成しましたので、皆様にお知らせいたします。

創立の精神

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは わたしにしてくれたことなのである」

マタイによる福音書第25章40節

衣笠病院の運営理念

1. キリスト教精神に基づいて患者、家族、地域の方々のために、全人医療を行う。
2. 法人内施設と協働し、保健・医療・福祉の一体的連携をめざす。
3. 「来てよかった病院」と言われるように、医の心をもって患者中心の全人医療を実践する。

〔人口〕 県内トップの超高齢化&人口減少地域

〔政策〕 地域包括ケアシステムと地域医療構想の推進

〔私達〕 衣笠病院グループは三浦半島の“真ん中”

事業方針

- 地域包括ケアシステムのハブ(軸)となる
 - ▶ “真ん中”を支える総合診療、サブアキュート(高齢者救急)・ポストアキュート入院、在宅医療・介護、リハビリを充実
 - ▶ 外来リハ・通所リハ・看護小規模多機能型居宅介護・定期巡回やホスピスハウスなど不足する在宅支援機能を整備
 - ▶ 地域全体最適の視点で施設間連携
- 優れた専門職集団を築く
 - ▶ 総合診療医・看護・リハビリ・介護の採用を強化
 - ▶ 各専門職の育成・成長を促す
 - ▶ 一人一人が伸びる仕組み、働きやすい仕組みを整える
- 利用者の療養環境と、職員の働く環境、DX環境を整備する

2024年度は、春の診療報酬・介護報酬の同時改定と物価高騰やエネルギー価格上昇などによって厳しい経営を迫られる中、職員一丸となった取り組みで安定したサービスを提供できています。将来に向けた取り組みとして全施設の人材育成を担うタレント成長支援室の設置、在宅医療・介護の情報を一元管理する新システムの導入、人事情報システム(出退勤や年末調整・諸届等の電子化)の導入、情報ネットワーク更新とセキュリティ対策などを終え、三浦半島全体の病院・診療所等が参加する診療情報共有システム(さくらネット)も稼働しました。併せて法人内の研修を地域に開放し、地域全体の人材育成を進める取り組みもスタートしました。

2025年度は上記「事業方針」具体化に向けた医療介護サービスの再構築、人材の充実や定着・育成の仕組みづくり、衣笠病院や衣笠ホームの環境改善計画作りへの着手を3本柱に取り組んでまいります。

引き続き隣人愛の精神、安全で質の高いサービスを提供すること、受診・入院や入所のご希望に速やかにお応えすること、横須賀共済病院や新築移転した市立総合医療センターとの連携を深化させること、地域の診療所や介護施設などからのご要望にお応えすることなど、衣笠病院グループの基本的な役割を果たす努力も続けてまいります。

新年度もご支援ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



栄養サポートチームの活動 ～“食べる”を支える～

NST 専門療法士・管理栄養士 高田 千春

衣笠病院にはNSTと呼ばれる栄養サポートチーム(Nutrition Support Team)があります。NSTは、週に1回の回診やミーティング・勉強会の開催をおこなっています。朝ドラ「おむすび」でも話題ですね。

NSTの役割には、栄養療法を通じた治療効果の向上、合併症の予防、QOL(生活の質)の向上などがあります。その中でも衣笠病院のNSTが特に力を入れているのは“食べる”を支えることです。食べるということは単に身体への栄養補給のための動作ではなく、生活の楽しみであったり、家族や友人とのコミュニケー

ションの一部であったり、気持ちがあたたかくなる心の栄養補給につながるものです。疾患の影響や加齢によって食事をする機能が低下することがありますが、そのような場合でも「また大好きな餃子が食べたい」「馴染みのお店で焼き鳥を食べられるようになりたい」「手料理を食べてもらいたい」「点滴や栄養剤だけでなく少しでも何か食べさせてあげたい」といったご本人やご家族の思いに寄り添い、主治医と連携しながら“食べる”ことができる可能性を考えて活動しています。下の表は“食べる”を支えるためにNSTの各メンバーが取り組んでいる主な内容です。

医師	主治医・耳鼻咽喉科医・歯科医師との連携、病態にかかわる評価、治療方針の把握
看護師	食事介助やベッドサイドにおける評価、家族指導
管理栄養士	栄養状態の把握、食事形態や量の調整、栄養指導
薬剤師	薬の形状や嚥下機能に影響を与える薬に関する情報提供
理学療法士	全身のリハビリや姿勢調整
作業療法士	食事動作にかかわるリハビリ、食具の調整
言語聴覚士	食事にかかわる機能の評価とリハビリ
臨床検査技師	臨床検査に関する情報の提供

各メンバーが専門性を生かして活動を実践しながら、情報を共有し、アイデアを出し合い、目標に近づけるように提案をおこなっています。かかわった患者さんの中には、目標とされていた食事が食べられるようになった方や、食事が食べられない状況から食事を再開できた方もいます。これからも患

者さんやご家族の思いを大切に、活動を継続していきます。入院中に栄養療法のことでお困りのことがありましたら、NSTへご相談ください。

去年は、歯科衛生士が衣笠病院に入職しました。口の中が汚れていると美味しく食べることができず、肺炎のリスクも高くなります。口腔衛生状況の評価や口腔ケアの実践・アドバイスを担当しており、NSTとの連携もはじまっています。



災害と防災について

～過去からの教訓を活かして～

2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で14年となります。マグニチュード9.0という観測史上最大の地震と、それに伴う巨大津波により、甚大な被害をもたらしました。死者・行方不明者は全国で約2万2千人を超え、福島第一原子力発電所事故も発生し、日本の社会に大きな衝撃を与えました。

筆者も地震当日は横浜市内で車を運転中に震度5強の地震が起こり、信号待ちで前のトラックが左右に大きく揺れ、信号機も倒れそうだったことを鮮明に覚えています。

また、一度目の地震後に病院(横須賀市は震度4)へ連絡した際にも二度目の大きな揺れがあり、院内のパニック状況が電話でも把握することができる程の状況でした。

東日本大震災は、多くの教訓を残しました。「想定外の事態の備え」や「情報の重要性」、「地域との関わり」、「避難計画の重要性」、「防災グッズ等の備え」などです。



(衣笠病院事務部長 行谷 俊明)



～職員の地震体験訓練～

衣笠病院では東日本大震災の教訓や1年前に発生した能登半島地震、ここ30年以内に発生する確率が高く、いつ起こるかも知れない南海トラフ地震を想定し、2024年11月に横須賀市南消防署の協力の下、地震体験車を用いて訓練を実施しました。

衣笠病院グループとして、地震体験車を使用する訓練は初めてだったので、事前に衣笠病院グループ全体に訓練参加者の募集をしたところ100名を超える希望があり、職員の関心の高さが見受けられました。これは記憶に新しく残る能登半島地震やいつ起きてもおかしくない南海トラフ地震の影響だと思えます。訓練当日は天候にも恵まれ、衣笠病院平面駐車場にて地震体験車を配置し訓練が行われました。体験内容としては、過去の大地震を模擬したものから、南海トラフ地震を想定したものまで様々で、総勢132名の職員が地震体験を行いました。体験者からは「怖かった、揺れの最中は何もできなかった」との声が多かったです。横須賀市南消防署の担当者からの講評では、地震が直接の死因になることは少なく、家具等の転倒や地震後の火災が原因となることが多く、家具等の固定見直しなど2次被害防止が重要とのことでした。また、「地震を防ぐことはできないが備えることはできる。有事に備え、職場や家族と話すことが大事」との言葉が印象的でした。



今回の訓練を通して、職員全員が災害や防災に対する意識を高め、地域での役割を理解し、職員一人ひとりができる備えに努めたいと思いました。

(施設用度課主任 渡辺 良輔)

「衣笠病院グループ歴史館」

第4回 衣笠病院の源流(その4)

1947年8月1日、横須賀米海軍デッカー司令官の薦めにより、共済会横須賀病院衣笠分院は日本基督教団に移管され、日本基督教団衣笠病院としてスタートを切ることとなりました。

⑧草創期の病院状況

日本基督教団には病院経営を行うノウハウはなく、教団より小崎道雄総会議長、田崎健作社会部長、日野原善輔総務部長、松尾酒造蔵鎌倉雪ノ下教会牧師、宮本信之助横須賀教会牧師、西熊治横須賀教会信徒、またYMCA関係より末包敏夫日本YMCA同盟主事、木本茂三郎東京YMCA主事。日本キリスト者医科連盟より松島正雄医師らが派遣され、彼らが中心となり組織作りを行いました。

開院時の病院スタッフは、医師が初代病院長の元熊本医科大学学長黒沢良臣医師（精神科）、副院長の松島正雄医師（外科）ほか、木村良夫医師（内科・小児科）、田村久弥医師（産婦人科）の計4名。看護婦は磯村貞子総婦長含め13名、薬剤師2名、事務長に千葉愛爾氏、宗教部に宮本信之助牧師・林保牧師、その他職員を加え総勢35名の職員で80床の病院として船出しました。殆どの職員はクリスチャン信徒でした。

病院の建物施設は共済会より荒廃した病院をそのまま引き継いだので、建物は荒れ放題、樋は腐り、屋根は洩り、便所は汚水で充満し、建物の周囲は靴がめりこむ程の泥土であったようです。改修するにも資金も資材もない時代、容易ではありませんでした。近隣の教会員の奉仕、米海軍病院からの強力な支援により少しずつ病院機能が整備されていきました。

開院から8か月後、1948年3月10日には病院献院式を行い、デッカー横須賀米海軍司令官・オーズレー海軍病院長・リック海軍連病院チャプレン・太田横須賀市長・原田横須賀医師会長・

トムソン宣教師らを来賓として迎え、病院を神にささげることが出来ました。また中島房雄牧師が初代専従チャプレンとして就任し、キリスト教病院として歩み始めました。

⑨財団法人の認可

1948年7月かねてより申請していた財団法人の認可をうけ、名称を「日本医療伝道会衣笠病院」とし、日本基督教団より組織的に独立することとなり、理事長に日本基督教団総会議長小崎道雄牧師が就任しました。法人名の由来は25年史に木本茂三郎理事が語っていますので紹介したいと思います。「私はYMCA同盟の末包敏夫とともに病院設立に加わることとなった。名称を決めるとき、この病院は南京の朝天病院の日本版であり、メディカルミッションの意味で医療伝道会とし、その上に日本、下に衣笠病院としたのは、他にも同様な病院が生まれ、医療伝道会チェーンが出来ることを期待したためであった。このミッション精神はわが病院が長く保たなければならない」と語っています。この精神を受け病院は牧師専用のミニスターベッドを設置し伝道牧会にあたる牧師先生の健康管理を行い、また公衆衛生部を設け健康相談、乳幼児健康相談、母親教室を行っていました。また産科では、中古車を購入し、三浦半島一帯の妊婦送迎サービスを行い、地域の病院では一番の分娩数を誇るに至りました。このようにして病院はキリスト教の愛の医療奉仕を実践していくことにより、地域の方々から信頼される病院へとなっていました。

1950年になると黒沢初代病院長が退任し、新たな病院形成がはじまります。今回は病院の福祉病院としての歩みを語っていききたいと思います。

(法人監事 阿部 誠)

今月の聖句

チャプレン室 チャプレン

赤松 真希

「ひとつぶの星」

「彼らが王の言葉を聞いて出かけると、
東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。」
(マタイによる福音書2章9節)

横須賀といえば艦船並ぶ海が思い浮かびますが、実は山がちな地形でもあります。病院のある「衣笠」という地域は横須賀の中心地である海側のエリアからひと山越えた場所にありますが、起伏の激しい地からは実は星がとてもきれいに見えます。寒い冬の夜にふと見上げた空にオリオン座を見つけたときは、小学生以来のちょっとした高揚を感じました。

朝、太陽の日ざしがきらめいていること。夜、中天にさしかかった月の光が窓からさしこむこと。わたしたちは太陽や月の明るさにちょっとした幸せを感じながら生活していますが、星々の明かりに慰められることもあります。星がいくら明るく輝いていたとしても夜道を歩くには難しいですが、暗い夜にたった1つでも夜空にまたたく星を見つけれられたなら、なんだかそれだけでこの夜一人ではないんだとほんの少し心強い気持ちになれたりします。

聖書には生まれればかりのイエス・キリストに出会いに博士たち（占星術の学者）が星を頼りに東から旅立ったと書かれています。見知らぬ土地を旅する彼らに星はどのように映っていたでしょうか。わたしたち人間の人生は時折、旅にたとえられますが、どこで誰に何が起こるのか、旅人たちは知りえません。それは地図のない道を手探りで歩いていくようなものかもしれません。病院という場所で働いているとことさらに強く感じます。そんなひとの歩みとともに、またたく星があったなら真っ暗な道を行かずにすみます。激しい明るさはなくても確かにあって、ほんの少し先立って一緒に歩み続けてくれる。そんな星を神が示してくださっていることを信じたいと思うのです。

失われた命の重みを忘れずに ～ 衣笠病院火災から65年を迎えて ～

チャプレン室長 大野 高志

「まだお正月気分の残ったひどく寒い晩でした」と、眼科医であられた古谷智恵子先生が、『衣笠病院教会創立50年記念誌』（1998年発行）であの日を振り返っておられます。新生児8名を含む16名の犠牲者を出した1960年1月6日夜の衣笠病院火災。今年で65年の節目を迎えました。

この日を忘れないことが、当病院グループにとって、災禍を忍び復興を後押ししてくださったご遺族たちの思いに応える大きな使命です。本年も1月6日には記念礼拝が捧げられ、大野チャプレンが「悔いの中、出棺式で読まれた詩編90編の『わたしたちの手の働きを、どうか確かなものにしてください』という祈りを私たちの祈りともしたい」と説教しました。

【記念礼拝の説教原稿を配布しています。

ご希望の方はミッション局まで】



記念礼拝後に殉職した青嶋ミチヨ看護師の顕彰碑に花を手向けました



さくらネットについて ～地域で支える新たな取り組み～

衣笠病院 事務部長 行谷 俊明

衣笠病院では、2025年1月から「さくらネット（地域医療介護連携ネットワークシステム）」に参加し、本格稼働が始まりました。

さくらネットは、4市1町（横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町・鎌倉市）と周辺地域の医療機関や歯科診療所・介護事業所・訪問看護ステーション・薬局等で作る新しい地域連携システムです。受診

歴や既往歴、アレルギー歴、検査結果、調剤情報などを利用者の同意の下、参加施設で共有し、地域で医療・介護をつなげ、皆さまの健康を連携して支えます。

地域の皆さまのご参加をお待ちしています！
※詳しくは、院内に掲示してあるポスターもしくは、「さくらネット」で検索してください。

一般社団法人 さくらネット協議会

住所：〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通1丁目16（横須賀共済病院内）

ホームページ <https://www.sakura-1.org/>

患者さんの医療・介護情報の地域医療機関等での共有には、患者さんの同意（「さくらネット」への登録）が必要です。



登録はQRコードから

元気に長生き!

～基本チェックリスト⑦ まとめ編～



衣笠病院 リハビリテーション技術科 石射 大路

衣笠第485号から行った基本チェックリストの内容の説明ですが、第493号にかけて6名のリハビリスタッフによって紹介して参りました（第485号の転倒予防編・第493号のうつ編等）。今回の⑦で基本チェックリストの内容の説明は終了となります。この基本チェックリストは、高齢者が自分の生活や健康状態を振り返り、心身の機能で衰えているところがないかどうかを確認するためのものとして、厚生労働省より提示されているツールの一つです。これは地域包括ケアセンターなどで介護予防としても活用している全国共通のチェックリストです。

自身の体調のことを客観的に見直すことで、心身機能低下の早期発見や状態悪化の防止に繋がっている可能性が高まります。定期的に自身の体調を確認し、住み慣れた地域で長く元気に生活を続けていきましょう。

今までの質問項目に加え、生活機能全般に関する質問も含めた全25個の質問をまとめたものは『厚生労働省 基本チェックリスト』で検索してください。

新チャプレン就任について

チャプレン室長 大野 高志

キリスト教の精神や文化を背景にしつつ、こころのケアを行う“チャプレン”。日本では珍しい職種かもしれません。チャプレン室は11月からフルタイムのチャプレンとして新たに赤松真希牧師を迎えました。

療養生活には悩みがつきもの。ひと時チャプレンとおしゃべりをしてみませんか。こころがふっと軽くなることを願っています。そうそう、職員の方の相談もお待ちしています。



赤松 真希

初めまして。「かながわ」と一字違う県「かがわ」出身で、今回初めて関東にやってきました。不慣れなことも多い身ですが、衣笠病院グループの皆さんにお支えいただきながら昨年からは生活を始めました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ケアマネジャーのケアマネ子さん 聞いてもいいですか？⑧ ～在宅看取り～

最終回



介護に迷える羊 メー太
父・母・祖母と暮らす
おばあちゃん子
慌てるとメー！と鳴く



メー代
メー太の祖母



ケアマネ子
鯛田町のケアマネジャー
メー太の隣人(猫)
メー代の担当者

衣笠病院長瀬ケアセンター 居宅介護支援事業所 高田 薫

ここは鯛田町3番地のある通り。今日もまた迷える羊の
メー太君がケアマネ子さんの事務所に訪れます。

-  **メー太** ケアマネ子さんお久しぶりです！
-  **マネ子** あら！こんにちは。メー代さんが亡くなってからもう1年くらいかしら？
-  **メー太** そうなんです。あの時はお世話になりました。
訪問介護のヘルパーさんがばあちゃんの体を拭いたり、オムツを交換してくれたり、訪問看護師さんが体調のチェックをしてくれたり……。訪問診療の先生が最期は看取って下さいました。
-  **マネ子** メー太君は介護で眠れない日も続いて、一時は施設入所か在宅介護かすごく悩みましたね。
-  **メー太** もしかしたら僕の下手な介護で看取るより、施設で看てもらった方がばあちゃんにとっては幸せなのでは？と悩んだ日もありました。でも、みなさんの力を借りて在宅で精一杯看取ることが出来たし、メー！と泣いて慌てる事も減りました。
-  **マネ子** メー太君、大人になったね！・・・ところでその抱えている物は何？
-  **メー太** あ、これですか？ばあちゃんが生前に編んだセーターです！100枚近くあるので供養だと思ってもらってください！ラクダ色なんてお勧めですよ！

終わり

2024 Christmas Memories



長瀬デイサービス利用者に
演劇披露



♪フルートとクラリネットの
生演奏会



ハンドベルの
演奏動画を鑑賞



シオン保育園クリスマス礼拝



編集後記

春の訪れを感じる季節となりました。寒さが苦手な人にとっては嬉しさがあるのではないのでしょうか。私は桜が好きなのでこの時期はとても幸せな気持ちになります。

そして3月といえば卒業シーズンですね。子どもの卒業を迎えるご家庭は何かと準備で慌ただしい時期ではないでしょうか。我が家は卒園を迎える子どもがいますが、準備に追われています。4月からはピカピカの1年生！子どものみならず、親の私も今からドキドキしています。
(M.Y.)

「衣笠」No.495

2025年3月1日発行
発行人 古屋 修身
発行 社会福祉法人
日本医療伝道会衣笠病院グループ
〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1
TEL. 046-852-1182 (代表)
郵便振替口座 00220-2-13963
編集 社会福祉法人日本医療伝道会
広報委員会
印刷 (株)ポートサイド印刷

